

令和7年度 第5回臨床腫瘍セミナー

がんの臨床に果たす鍼灸治療の役割

【講演概要】日本では年間約100万人ががんに罹患する。がん患者は痛みをはじめとして様々な症状を経験する。これはがんが原因であるものの他に、治療の有害事象、がんや治療とは無関係に発生するものに分類される。症状の軽減のために臨床では薬物による対処が行われるが、薬物のみで解決しない症状にもしばしば遭遇する。

鍼灸治療は無菌鍼を体表のツボに刺す統合医療の手法である。慢性的な非がん疼痛やがん患者の痛みに対し、鍼灸治療が優れた効果を示すことが複数のメタ解析で報告されている。鍼灸治療は非薬物療法の1つとして提案できるものだが、鍼灸治療を提供できる医療機関は限られ、その適応や効果、メリット・デメリットについて学ぶ機会は多くない。本講演では症状緩和のための鍼灸治療の適応と限界、鍼灸治療を病院で提供するうえでの課題について理解を深める機会としたい。

国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 医長

講師 石木 寛人 先生
(いしき ひろと)

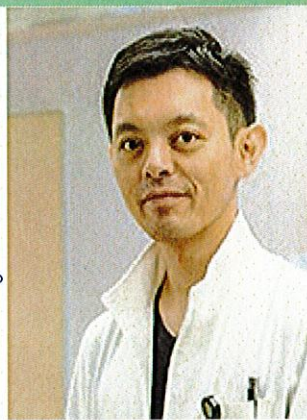
【略歴】

東京大学医学部医学科卒業後、頭頸部外科→腫瘍内科→緩和医療科のキャリアで2017年より国立がん研究センター中央病院緩和医療科に勤務。

【主要な取り組み】

臨床：国立がん研究センター緩和ケアチーム 身体症状専従医として主にがん患者さんの身体症状の緩和、AYAサポートチーム担当医としてAYA世代(15-39歳)の青年期、若年成人がん患者の様々な支援に取り組んでいます。また、疼痛、悪液質、腹水、便秘、自壊腫瘍、QOL尺度開発、サバイバーシップ、AYA世代支援など 様々な症状緩和や患者体験のデータ化に関する研究を行っています。

近年、AMED研究班の研究開発代表者（「乳がん根治治療後の慢性痛に対する鍼灸治療の開発(22lk0310085h0001)」 「乳がんサバイバーの慢性痛に対する鍼灸治療の臨床試験(25lk0310108h0001)」）として鍼灸治療の開発に取り組んでいます。



日時：令和7年11月13日(木)18時～19時

場所：福島県立医科大学11号館第2臨床講義室

司会：佐藤菜保子先生（成人・老年看護学部門、

参加無料／事前登録不要

大学院看護学研究科 がん看護学領域）

- ◆ がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ、患者様及び一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆ 本セミナーは、『東北広域次世代がんプロ養成プラン』事業の一環となっています。
- ◆ 本セミナーは、大学院授業要項に基づく「共通必修科目（8）」に該当します。大学院生は履修票をご持参下さい。

【お問い合わせ】 福島県立医科大学 教育研修支援課 TEL：024-547-1095 E-MAIL：ganpro@fmu.ac.jp

【次回予定】 令和7年12月18日(木) 18時～19時／福島県立医科大学11号館第1臨床講義室

(講師) 昭和医科大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島賢和先生